



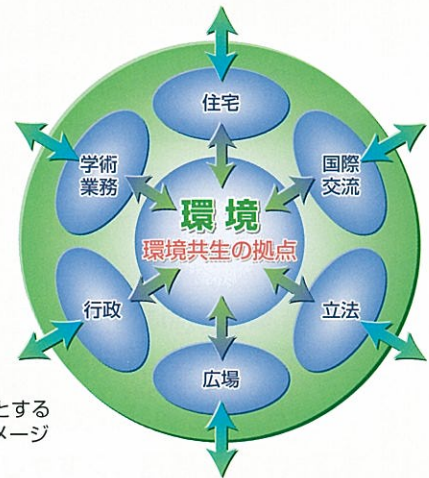
どんな都市ができるのですか

栃木(那須)地域への国会等の移転を実現し、希望に満ちた21世紀にふさわしい国づくり、栃木県づくり、そしてまちづくりを進めていくためには、那須地域の優れた自然環境を守り育てていくことが不可欠です。

北東地域5県(宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県)では、「北東地域首都機能移転モデル都市構想」を策定し、「環境」「文化」「平和」の面で国際貢献できるモデル的な都市づくりを提案しています。

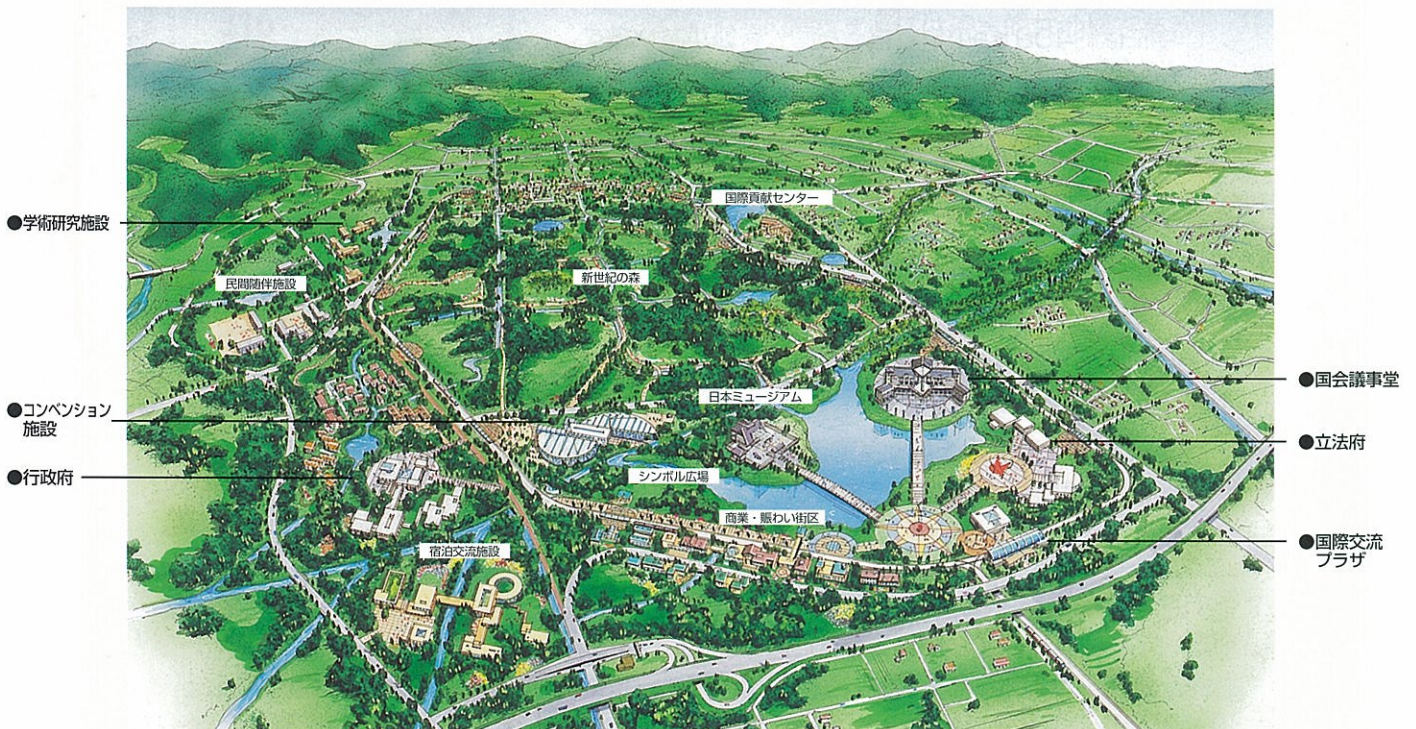
21世紀の世界共通のテーマである「環境」を基軸として「立法」「行政」「学術・業務」「国際交流」「住宅」等の各機能が互いに連携し合い、一体とした都市を形成します。

右のイメージ図を基に、以下のような国会都市を描いております。



「環境」を基軸とする
国会都市のイメージ

国会都市

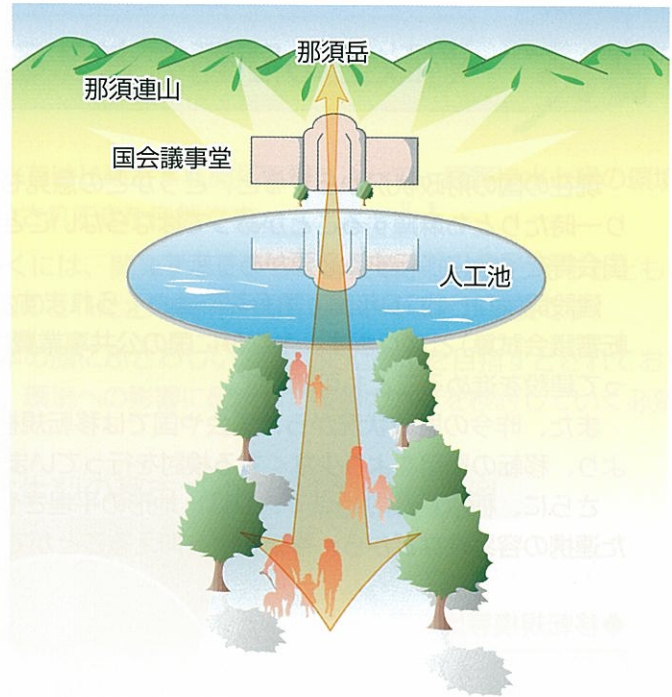


那須の雄大で多様な自然に包まれながら、澄んだ空気と明るい陽光の下で、心地よく風が吹き、平地林の大地が広がり、潤沢な水に恵まれ、遠くに自然と生命の畏敬を感じさせる那須連山と、日光国立公園や八溝の山々を背景に国政が運営されている地域です。この国会都市には2万人程度の人々が暮らすこととなります。

山に向かって視線を導く景観軸のイメージ

古来から日本では、山や水辺といった自然の地形を生かした景観を創りだしてきました。

広場から国会議事堂を眺望する景観軸上に、大水面と那須地域のシンボルである那須岳があります。まさに新しい日本の顔にふさわしい景観であるといえます。



大水面・広場を囲む国政地区のイメージ

中央部に広大な水面(人工池)を有するシンボル広場を配置し、その周りで遊ぶ子供たちや散策する人々、水面にはボートが漂っています。

シンボル広場の周辺には国会議事堂、行政府などが配置されます。



新世紀の森のイメージ

国会都市のシンボルとして、環境をテーマとする新世紀の森を都市の中央に創造することにより、住民が身近に自然とふれ合うことができるようになります。環境学習の場となるなど環境共生の拠点としての役割を担います。

